

4-593-095-**01** (1)

UHF シンセサイザー
ダイバーシティチューナー

取扱説明書

URX-P03D

目次

特長

UHF シンセサイザーダイバーシティチューナー URX-P03D は、2 波受信ができるポータブルタイプのワイヤレスチューナーです。
小型カムコーダーやレンズ交換式デジタルカメラなどと組み合わせることで、ENG（Electronic News Gathering）やEFP（Electronic Field Production）、スポーツイベント、ウェディングなど、さまざまな用途に使用できます。
DSP を搭載し、デジタルコンパンダー処理によって高音質な伝送を実現。また、モードを切り換えることにより、従来のソニー製アナログワイヤレスマイクロホンシステム（UWP シリーズ、WRT シリーズ、WRR シリーズ、WRU シリーズ）と組み合わせて使用することができます。
さらに、本機で設定した周波数およびコンパンダーモードを送信機へ送ることができる、赤外線通信機能を搭載。クリアチャンネルスキャン機能との組み合わせにより、チャンネル設定の時間を大幅に短縮します。

外部マイク入力端子

プラグインパワー方式の外付けマイクロホンや、ソニー製の BMP タイプのラベリアマイクロホンに対応した外部入力端子を備えています。

ミキシング機能を内蔵

チューナー 1、チューナー 2、および外部マイクから入力された音声信号は、メニュー設定によりそれぞれ OUTPUT 1（L チャンネル）、OUTPUT2（R チャンネル）のどちらかまたは両方に割り当てることができます。これにより、それぞれの音声信号を自在にミックスしてステレオもしくはモノラルとして出力することができ、スピーディーな素材作りに寄与します。

ダイバーシティ受信方式

ドロップアウトの少ないスペースダイバーシティ方式を採用。（1 チャンネル動作時はより安定性のあるトゥルーダイバーシティ方式）

ソニーアナログワイレスマイクロホンとの互換性

DSP を搭載し、デジタルコンパンダー処理によって高音質な伝送を実現。コンパンダーモードを切り換えることにより、ソニー製アナログワイヤレスマイクロホンシステム（UWP シリーズ、WRT シリーズ）の送信機と組み合わせて使用できます。

チャンネルスキャン機能を搭載

未使用のチャンネルを探す「クリアチャンネルスキャン」と、使用中で受信可能なチャンネルを探す「アクティブチャンネルスキャン」の 2 種類の周波数スキャン機能を搭載しています。これにより、スピーディーで安全に運用チャンネルを設定できます。

赤外線通信機能の搭載

UWP-D シリーズの送信機と組み合わせて使用する場合、本機で設定した周波数とコンパンダーモードを赤外線通信機能で送信できるため、短時間でチャンネル設定が完了します。

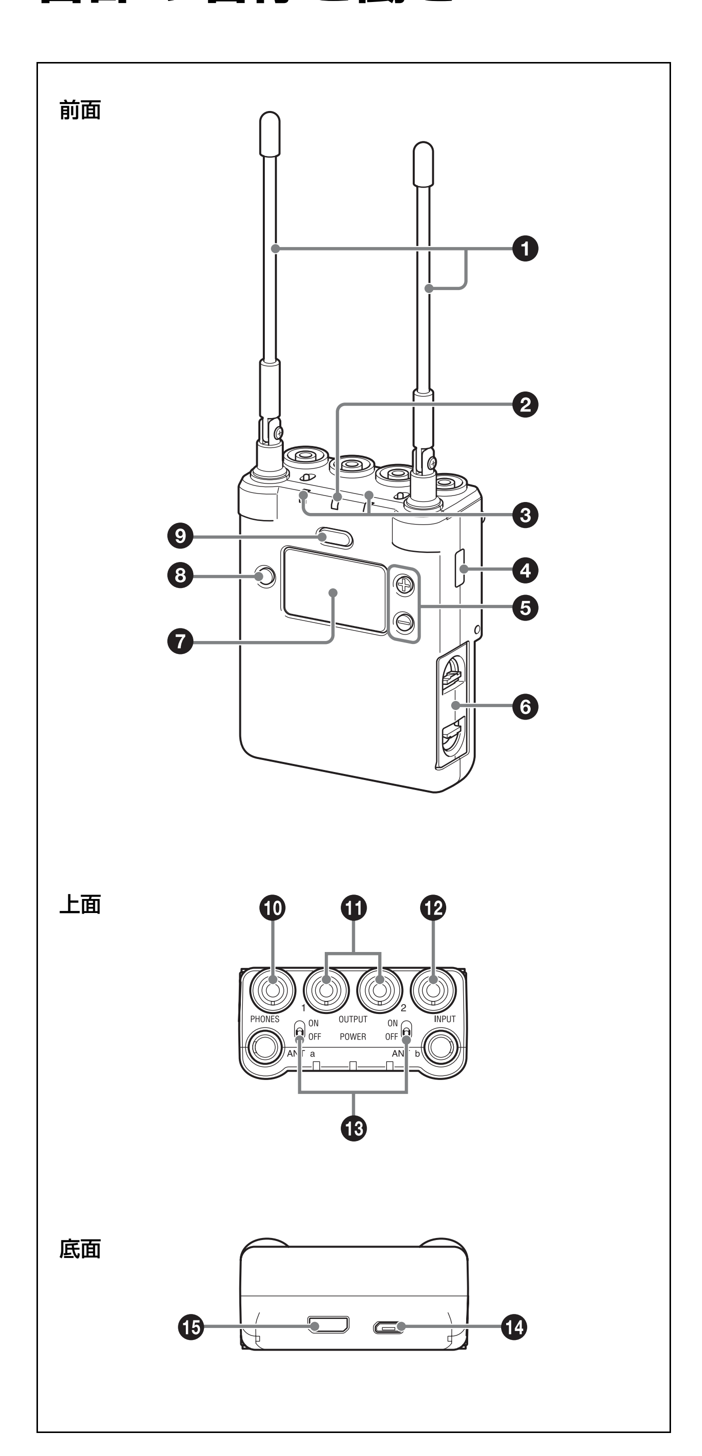
単 3 電池 2 本で動作

単 3 型アルカリ乾電池 2 本で 5 時間動作します。ニッケル水素充電池、リチウム電池も使用できます。

マルチインターフェースシュー対応

ソニー製のビデオカメラレコーダーやレンズ交換式デジタルカメラなどのマルチインターフェースシューを登載したカメラを使用している場合は、別売りの専用シューマウントアダプター SMAD-P3D を介して本機を取り付けることで、ケーブルを接続せずに本機からカメラへ音声信号を伝送できます。

各部の名称と働き



❶ アンテナ

❷ POWER（電源）インジケーター

電池残量、または充電状態を表示します。

インジケーターの表示	状態
点灯（緑）	電池残量が充分
点滅（緑）	電池がほとんど消耗している
点灯（橙）	充電中（ニッケル水素充電池を装着し、本機が電源 OFF の場合のみ）
点滅（赤）	充電不可（ニッケル水素充電池以外の電池、または劣化したニッケル水素電池が入っている場合） **ご注意** USB ケーブルを抜き、電池を交換してください。
消灯	電源 OFF または充電完了

❸ RF（高周波）インジケーター

チューナー 1 とチューナー 2 それぞれの高周波入力レベルを表示します。

緑色点灯：25 dB μ 以上

赤色点灯：15 ～ 25 dB μ

消灯：15 dB μ 未満

0 dB μ ＝ 1 μ V_{EMF}

❹ 赤外線送信ポート

設定した周波数およびコンパンダーモードを送信機に送信するためのポートです。

❺ ＋または－ボタン

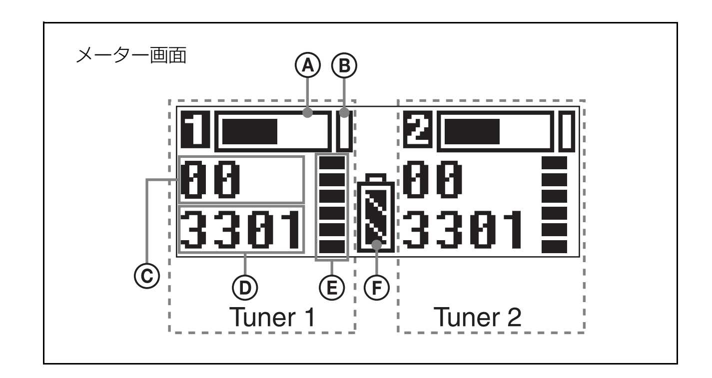
ディスプレイに表示された機能や値を選択します。

❻ 電池ホルダー

単 3 形電池（アルカリ乾電池、ニッケル水素充電池、リチウム電池）2 本を入れます。

◆ 電池の入れかたについて詳しくは、「電源」（6 ページ）をご覧ください。

❼ ディスプレイ部



Ⓐ オーディオ入力レベルメーター

受信したオーディオ信号のレベルを表示します。

Ⓑ ピークインジケーター

オーディオ信号がひずみはじめる 3dB 前で点灯し、過大入力を警告します。

Ⓒ グループ表示

設定されている受信グループ名を表示します。

Ⓓ チャンネル表示

設定されている受信チャンネル名を表示します。

Ⓔ RF レベルメーター
RF 入力レベルを表示します。入力レベルにより点灯する目盛りの数が変わります。
6 目盛りが点灯：60 dBμ 以上
5 目盛りが点灯：50 ～ 60 dBμ
4 目盛りが点灯：40 ～ 50 dBμ
3 目盛りが点灯：30 ～ 40 dBμ
2 目盛りが点灯：20 ～ 30 dBμ
1 目盛りが点灯：10 ～ 20 dBμ
点灯なし：10 dBμ 未満

Ⓕ 電池残量表示
電池の残量を表示します。USB 端子から電源供給されている場合は、「EXT」と表示されます。SMAD-P3D（別売）から電源供給されている場合は「MI」と表示されます。

◆ 詳しくは、「電池残量の表示」（6 ページ）をご覧ください。

❽ SET（セット）ボタン
ディスプレイに表示された機能を変更したり、調整した値を決定したりします。

❾ MENU（メニュー）ボタン
ディスプレイに表示されるメニューの種類を切り換えます。

❿ PHONES（モニター）端子（Φ3.5 mm ステレオミニジャック）
この端子にヘッドホンを接続して、音声出力をモニターします。

ご注意

モノラルミニジャックのヘッドホンをこの端子に接続しないでください。ヘッドホン出力がショートし、音声がひずみます。

⓫ OUTPUT 1/2（音声出力 1/2）端子（Φ3.5 mm ステレオミニジャック、平衡出力）
付属の XLR-BMP 変換出力ケーブルまたはステレオミニ - BMP 変換ケーブルを接続し、カムコーダーまたはミキサー、アンプなどのマイクロホン入力端子に接続します。
接続する機器のマイクロホン入力端子がステレオミニジャックの場合は、ストレート（BMP）プラグをチューナーに、L 型（ステレオミニ）プラグを相手の機器のマイクロホン入力端子に接続してください。

ご注意

マイクロホン用外部電源などの電圧を加えないでください。故障の原因になります。

⓬ MIC INPUT（音声入力）端子（Φ3.5 mm ステレオミニプラグ）
プラグインパワー方式の外付けマイクロホンや、ソニー製の BMP タイプのラベリアマイクロホンを接続します。

⓭ POWER（電源）スイッチ
チューナー 1、チューナー 2 の電源を個別に ON/OFF できます。

⓮ USB 端子（マイクロ B タイプ）
市販の USB ポータブル電源を接続します。
本機の電源が ON のときは、USB ポータブル電源から電源を供給して動作します。本機の電源が OFF で、ニッケル水素充電池を装着している状態のときは、USB ポータブル電源からニッケル水素充電池を充電します。

ご注意

アルカリ乾電池、リチウム電池を充電することはできません。

⓯ 外部接続用端子
外部アクセサリーとの接続に使用します。

電源

単３形電池２本（アルカリ乾電池、ニッケル水素充電池、リチウム電池）、USB 端子からの電源供給、または外部接続用端子からの電源供給で動作します。単３形電池からと、USB 端子または外部接続用端子から同時に電源供給されている場合は、優先的に使用する電源を PWR SOURCE（外部電源選択）機能で設定することができます。工場出荷時は、本体に取り付けた単３形電池を優先的に使用するように設定されています。電池の入れかたと電池の残量表示について、また USB 端子からの電源供給について下記の項目で説明しています。

◆ PWR SOURCE 機能の設定について詳しくは、「優先的に使用する電源を選択する（PWR SOURCE）」（13 ページ）をご覧ください。

ご注意

マンガン乾電池を使用すると、充分な性能が得られませんので使用しないでください。

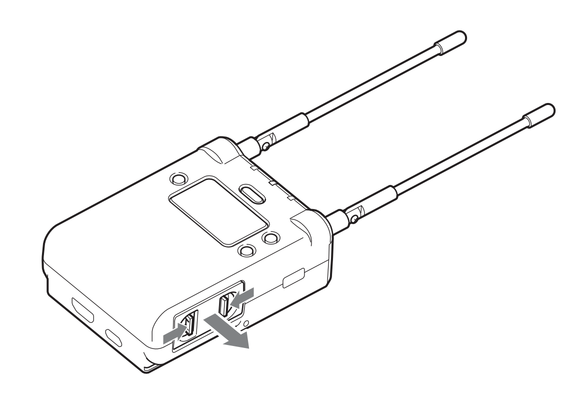
電池を入れる

ご注意

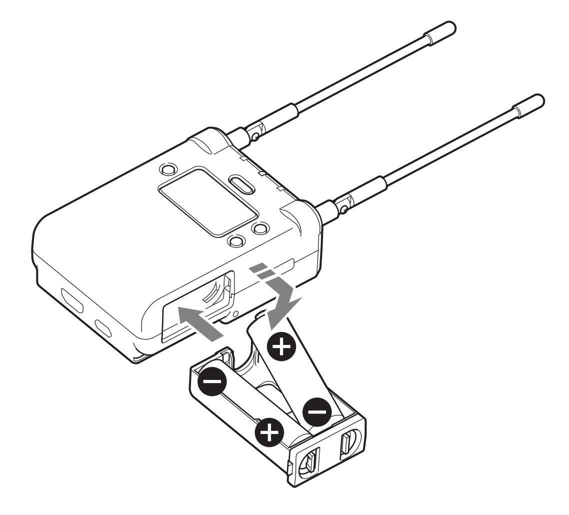
- 電池は必ず同じ種類の電池を使用してください。違う種類の電池や残量の異なる電池を組み合わせて使用しないでください。
- 使用中に電池の交換を行うと、大きな雑音が発生します。電池の交換は、必ず電源を切ってから行ってください。

1 電源を切る。

2 ２つの取っ手をつまんで同時に中央に寄せながら、電池ホルダーを引き出す。



3 新しい単３形電池２本の ⊕ と ⊖ を確認して入れ、電池ホルダーを戻す。



電池ホルダーが本体にしっかりロックされていることを確認してください。

電池残量の表示

チューナー１または２の電源を入れると、ディスプレイ部に本機の電池残量が表示されます。
下記の表の５のように表示が点滅しはじめたら、直ちに電池を２本とも新しいものと交換してください。新しいアルカリ乾電池を使用する場合は、記載されている使用推奨期限を確認のうえ使用してください。

	電池残量表示	電池の状態
1	点灯	良好
2	点灯	残量 70% 以下
3	点灯	残量 40%以下
4	点灯	残量 20%以下
5	点滅	ほとんど消耗している

ご注意

- BATTERY 機能で TYPE1 を選択した場合、新品のソニーアルカリ単３形乾電池を基準に電池の残量表示をします。その他の種類の電池や他社製の乾電池、新しくない乾電池などでは正しく残量表示ができないことがあります。アルカリ単３形乾電池以外の電池をご使用の場合には、BATTERY 機能で電池の種類を選択してください。
- 長時間続けてお使いになるときは、新しい乾電池と交換することをおすすめします。

- 電源を切った状態でも電池は少しずつ消費していきます。本機を長期間使わないときは、電池を取り出してください。

◆ BATTERY 機能の設定について詳しくは、「電池の種類を設定する（BATTERY）」（13 ページ）をご覧ください。

電池についてのご注意

電池の使い方を誤ると、液漏れや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。
- ⊕ と ⊖ の向きを正しく入れてください。
- 電池を交換するときには、必ず 2 本とも新しい電池と交換してください。
- 新しい電池と使用した電池、または種類の違う電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池は充電できません。
- 本機を長時間使わないときは、電池を取り出しておいてください。万一、液漏れが起こったときは、ソニーのサービス窓口にお持ちください。

USB 端子から電源供給する

本機は、USB 端子に市販の USB 出力タイプの AC アダプターやポータブル電源を接続して動作させることができます。
USB 出力タイプの AC アダプターやポータブル電源を接続して給電する場合は、以下の条件のものを使用してください。
- 出力端子形状：USB マイクロ B タイプ
- 定格電圧：5 V
- 出力電流：200 mA 以上

USB 端子から電源が供給されている場合は、ディスプレイ部に「EXT」アイコンが表示されます。

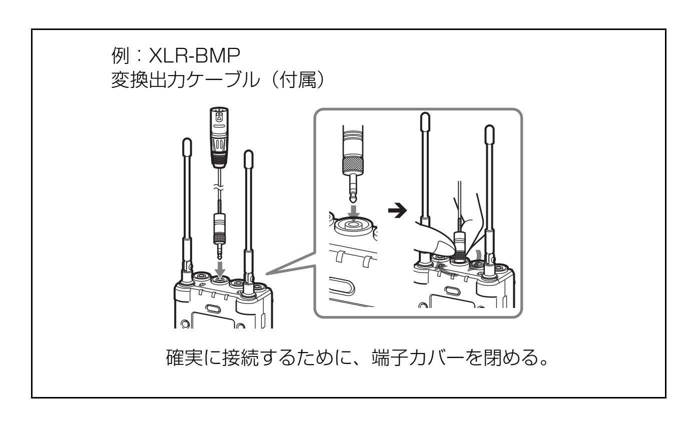
ニッケル水素充電池を充電する

本機に装着したニッケル水素充電池を充電することができます。
ニッケル水素充電池を充電するときは、本機の電源を OFF にして、USB 端子に市販の USB 出力タイプの AC アダプターやポータブル電源を接続します。
充電中は POWER インジケーターが橙色に点灯します。充電が完了すると、POWER インジケーターが消灯します。
USB 出力タイプの AC アダプターやポータブル電源を接続して充電する場合は、以下の条件のものを使用してください。
- 出力端子形状：USB マイクロ B タイプ
- 定格電圧：5 V
- 出力電流：1 A 以上

ご注意
- 充電池や、充電のために接続する AC アダプターやポータブル電源、コンピューターによっては、充電できないことがあります。
- 電源が ON になっている場合は、ニッケル水素充電池は充電されません。

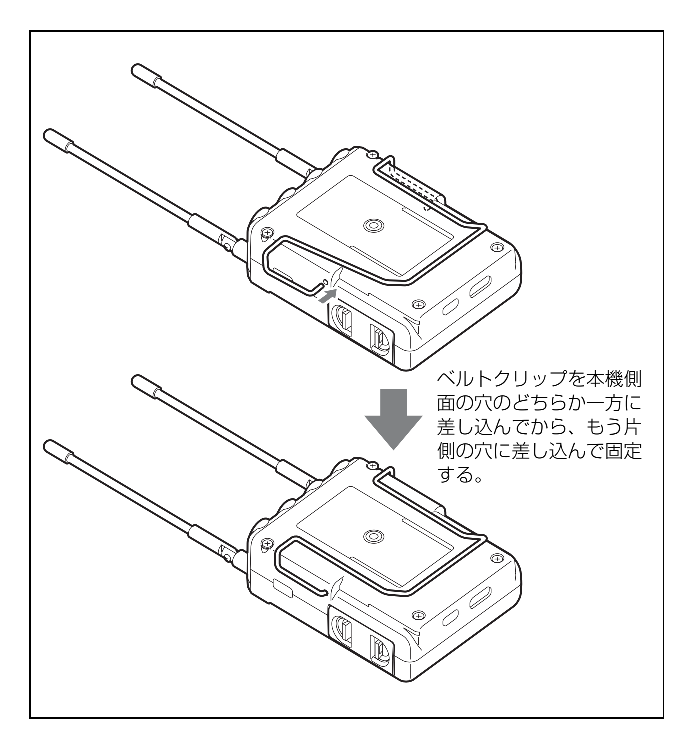
付属品の取り付け

OUTPUT 端子に付属の変換ケーブルを接続する



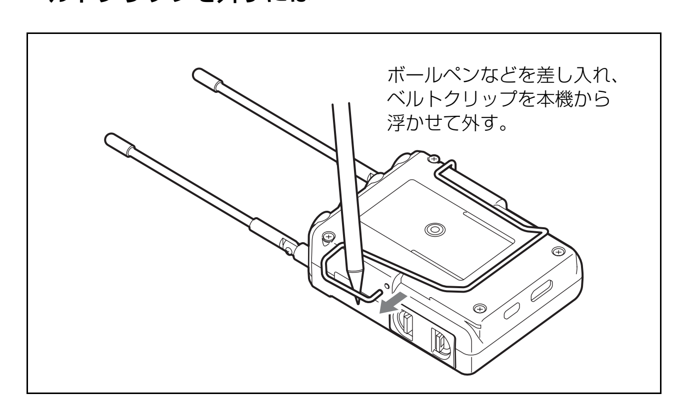
確実に接続するために、端子カバーを閉める。

ベルトクリップを取り付ける



ベルトクリップを本機側面の穴のどちらか一方に差し込んでから、もう片側の穴に差し込んで固定する。

ベルトクリップを外すには



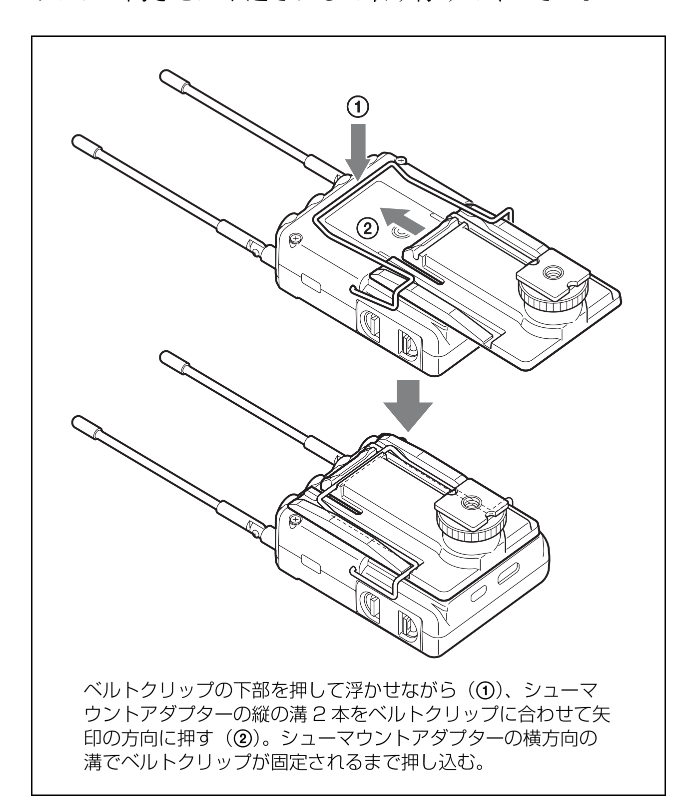
ボールペンなどを差し入れ、ベルトクリップを本機から浮かせて外す。

シューマウントアダプターを取り付ける

あらかじめベルトクリップを取り付けておいてください。

ご注意

シューマウントアダプターを取り付ける場合は、ベルトクリップの向きを上下逆さにして取り付けてください。

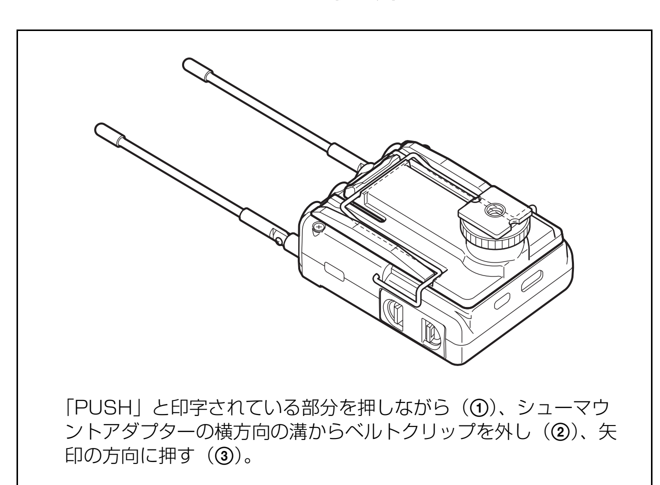


ベルトクリップの下部を押して浮かせながら（①）、シューマウントアダプターの縦の溝 2 本をベルトクリップに合わせて矢印の方向に押す（②）。シューマウントアダプターの横方向の溝でベルトクリップが固定されるまで押し込む。

ご注意

カムコーダーに取り付ける場合は、本機のアンテナが画面に映り込むのを防ぐため、アンテナを折り曲げて使用してください。

シューマウントアダプターを取り外すには



「PUSH」と印字されている部分を押しながら（①）、シューマウントアダプターの横方向の溝からベルトクリップを外し（②）、矢印の方向に押す（③）。

設定

受信チャンネルを設定する

選択可能なチャンネルグループとチャンネルについては、CD-ROMに収録されている「周波数リスト」を参照してください。

ご注意

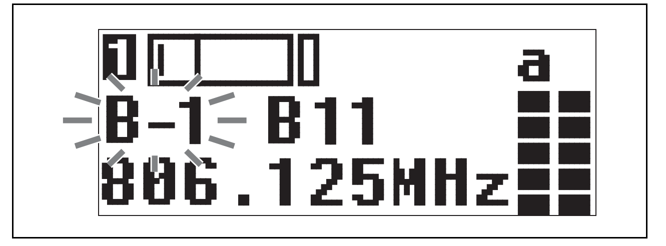
混信や雑音を防ぐため、次の点にご注意ください。
- 同じチャンネルに設定した複数台の送信機を同時に使用しないでください。
- 同時に2波以上を使用する場合は、必ず同一グループ内の異なるチャンネルに設定してください。
- 送信機および受信機をそれぞれ3 m以上離して使用してください。

1 POWER1またはPOWER2スイッチをONにする。

2 MENUボタンを押してRX1メニューまたはRX2メニューを表示させ、+ボタンまたは−ボタンを押してGP/CH画面を表示させる。

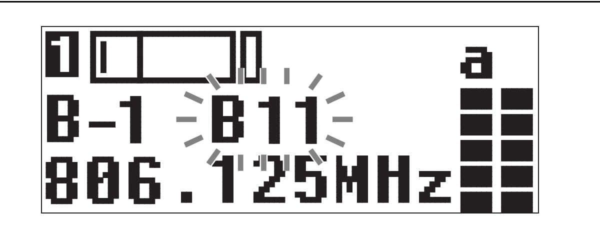
3 SETボタンを1秒以上長押しする。

チャンネルグループ表示が点滅します。



4 +または−ボタンを押して、希望のグループ名を選択し、SETボタンを押す。

チャンネルグループが設定され、チャンネル番号表示が点滅します。



5 +または−ボタンを押して、希望のチャンネル番号を選択し、SETボタンを押す。

点滅表示が終了し、希望のチャンネルに設定されます。

ご注意

- チャンネルグループ表示またはチャンネル番号表示の点滅中に、10秒間どのボタンも押さないと、点滅時の設定値で保存されます。この動作は、他の項目を設定する場合も同じです。
- 周波数表示は、チャンネル番号に応じて表示が変わります。
- 受信チャンネルの設定中でも、受信はできます。
- 設定中に電源が切れた場合は、設定の手順を最初から行ってください。
- 同一システム内の送信機と受信機は同じチャンネルに設定してください。

グループ内の空きチャンネルを検索する（クリアチャンネルスキャン）

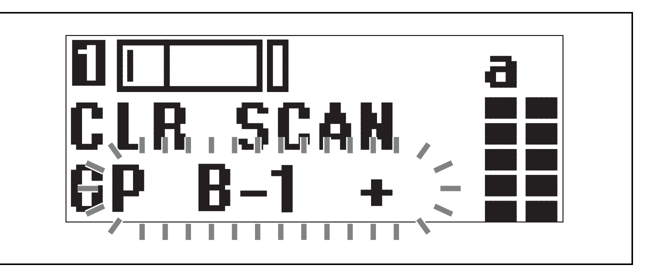
設定されているチャンネルグループ内の空きチャンネルを検索することができます。
以下の操作を行う前に、あらかじめチャンネルグループを設定しておいてください。

◆ 詳しくは「受信チャンネルを設定する」（9ページ）をご覧ください。

1 MENUボタンを押してRX1メニューまたはRX2メニューを表示させ、+ボタンまたは−ボタンを押してCLR SCAN画面を表示させる。

2 SETボタンを1秒以上長押しする。

チャンネルグループ表示と、+表示が点滅するまで長押ししてください。



3 +ボタンを押す。

設定されているチャンネルグループの中で、使用可能な空きチャンネルを検索します。空きチャンネルが見つかると、最初の空きチャンネルの番号が点滅します。

次の空きチャンネルを表示させるには
+ボタンを押します。

検索をキャンセルするには
−ボタンを押します。CLR SCAN画面に戻ります。

4 希望のチャンネル番号が点滅したら、SET ボタンを押す。

空きチャンネルの検索が終了し、表示されているチャンネルが確定します。

グループ内の使用チャンネルを検索する（アクティブチャンネルスキャン）

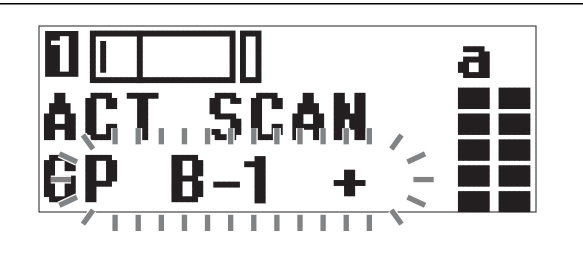
設定されているチャンネルグループ内で、すでに使用しているチャンネルを検索することができます。複数の受信機を、1 つの送信機と組み合わせて同時に使う際に便利です。
以下の操作を行う前に、あらかじめチャンネルグループを設定しておいてください。

◆ 詳しくは「受信チャンネルを設定する」（9 ページ）をご覧ください。

1 MENU ボタンを押して RX1 メニューまたは RX2 メニューを表示させ、＋ボタンまたは－ボタンを押して ACT SCAN 画面を表示させる。

2 SET ボタンを 1 秒以上長押しする。

チャンネルグループ表示と、＋表示が点滅するまで長押ししてください。



3 ＋ボタンを押す。

設定されているチャンネルグループの中で、すでに使用しているチャンネルを検索します。使用チャンネルが見つかると、最初の使用チャンネルの番号が点滅します。

次の使用チャンネルを表示させるには
＋ボタンを押します。

検索をキャンセルするには
－ボタンを押します。ACT SCAN 画面に戻ります。

4 希望のチャンネル番号が点滅したら、SET ボタンを押す。

使用チャンネルの検索が終了し、表示されているチャンネルが確定します。

コンパンダーモードを設定する

本機と組み合わせる送信機によって、コンパンダーモードを切り換える必要があります。
チューナー 1、チューナー 2 に異なるコンパンダーモードを設定できます。

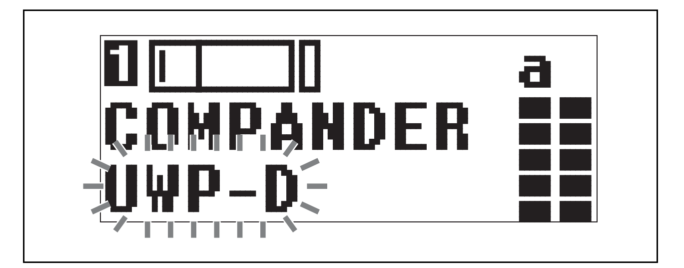
ご注意

- UWP-D シリーズの送信機と組み合わせて使う場合は、送信機のコンパンダーモードも同じ設定にしてください。
- コンパンダーモードの設定が異なる組み合わせで使用すると、トーン信号周波数が異なるため、音が出ません。

1 MENU ボタンを押して RX1 メニューまたは RX2 メニューを表示させ、＋ボタンまたは－ボタンを押して COMPANDER 画面を表示させる。

2 SET ボタンを 1 秒以上長押しする。

選択項目が点滅します。



3 ＋ボタンまたは－ボタンでコンパンダーモードを選択し、SET ボタンを押す。

選択したコンパンダーモードに設定されます。
UWP-D：ソニー UWP-D シリーズの送信機と組み合わせる場合に選択します。
UWP：ソニー UWP シリーズの送信機と組み合わせる場合に選択します。
WL800：ソニー WRT シリーズの送信機と組み合わせる場合に選択します。

送信機とコンパンダーモードの組み合わせ

使用する送信機に合ったコンパンダーモードに設定します。

ご注意

送信機とコンパンダーモードの設定の組み合わせが適切でない場合は、音が出ません。

送信機		本機のコンパンダーモード		
		UWP-D	UWP	WL800
UWP-D シリーズ（UTX-B03、UTX-M03、UTX-B03HR）	コンパンダーモード：UWP-D	○	×	×
	コンパンダーモード：UWP	×	○	×
	コンパンダーモード：WL800	×	×	○

送信機	本機のコンパンダーモード		
	UWP-D	UWP	WL800
UWP シリーズ（UTX-B2、UTX-H2）	×	○	×
WRT シリーズ（WRT-822、WRT-860 など）	×	×	○

赤外線通信機能を使う

UWP-D シリーズの送信機と組み合わせて使用する場合は、赤外線通信機能を使って本機から送信機の周波数およびコンパンダーモードを設定できます。

ご注意

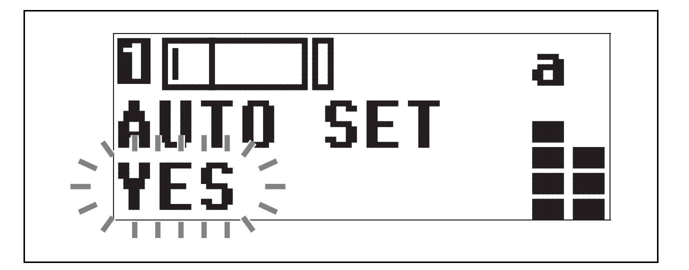
UWP シリーズおよび WRT シリーズの送信機との組み合わせでは、本機能は使用できません。

空きチャンネルを検索し、赤外線通信でチャンネル設定する（AUTO SET）

1 MENU ボタンを押して RX1 メニューまたは RX2 メニューを表示させ、+ボタンまたは−ボタンを押して AUTO SET 画面を表示させる。

2 SET ボタンを 1 秒以上長押しする。

「YES」表示が点滅します。



3 SET ボタンを押す。

クリアチャンネルスキャンがスタートし、空いているチャンネルを探します。
クリアチャンネルスキャンが完了すると、雑音や妨害電波の影響が最も少ないチャンネルに設定されます。
チャンネルが設定されると、自動的に赤外線送信がスタートします。

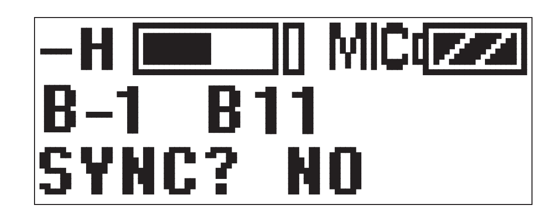
ご注意

電源を入れるとノイズが発生する場合がありますので、本機に接続した機器の音声入力レベルを絞ってから電源を入れてください。

4 送信機のSETボタンを押しながらPOWER/MUTINGボタンを 1 秒以上長押しして、電源を入れる。

5 本機の赤外線送信ポートと、送信機の赤外線受光部を近づける。

本機で設定したチャンネル情報が送信機へ送られ、送信機のディスプレイに周波数を変更するか確認するメッセージが表示されます。



6 送信機の + または − ボタンで「YES」を選択し、SET ボタンを押す。

送信チャンネルとコンパンダーモードが設定されます。

ご注意

- 手順 **3** の本機からの赤外線送信は、約 10 秒間行われます。10 秒以内に手順 **4**、**5** の操作を行ってください。
  10 秒を超えてしまった場合は、本機の SYNC 画面から再度赤外線送信ができます。
- 送信機と本機は、約 20 cm 以内に近づけてください。
- 送信機のディスプレイに確認メッセージが表示されてから何も操作せずに約 5 秒間経つと、チャンネル変更が行われず、元の状態に戻ります。
- 赤外線を利用した通信のため、周囲の環境によっては正常に通信できない場合があります。そのときは本機の SYNC 画面から、再度設定してください。

グループ / チャンネルを手動で設定後、赤外線通信でチャンネル設定する（SYNC）

1 グループ / チャンネルを設定する（9 ページ）。

2 MENU ボタンを押して RX1 メニューまたは RX2 メニューを表示させ、+ボタンまたは−ボタンを押して SYNC 画面を表示させる。

3 SET ボタンを 1 秒以上長押しする。

確認画面が表示されます。

4 +ボタンまたは−ボタンで「YES」を選択し、SET ボタンを押す。

5 送信機のSETボタンを押しながらPOWER/MUTINGボタンを 1 秒以上長押しして、電源を入れる。

6 本機の赤外線送信ポートと、送信機の赤外線受光部を近づける。

本機で設定したチャンネル情報が送信機へ送られ、送信機のディスプレイに周波数を変更するか確認するメッセージが表示されます。

-H MIC
B-1 B11
SYNC? NO

7 送信機の＋または－ボタンで「YES」を選択し、SET ボタンを押す。

送信チャンネルとコンパンダーモードが設定されます。

モニター音量を調節する

モニター音量は、1 ～ 16 の範囲で設定できます。

1 MENU ボタンを押してメーター画面を表示させ、＋または－ボタンを押して PHONES 画面を表示させる。

現在のモニター音量のレベルが表示されます。

UTILITY

PHONES
16

2 SET ボタンを 1 秒以上長押しする。

モニター音量レベルが点滅するまで長押ししてください。

3 ＋または－ボタンを押して希望のモニター音量レベルに設定し、SET ボタンを押す。

設定値が記憶されます。設定値は、電源を切っても保持されます。

メニューの表示と詳細設定

メニューの構成と階層

メニューの構成

UTILITY メニュー

チューナー 1 および 2 の各種情報が表示されているメーター画面から UTILITY メニューを表示できます。
UTILITY メニューでは本機の基本設定を行えます。

RX1（チューナー 1）メニュー

RX1（チューナー 1）の各種設定を行えます。

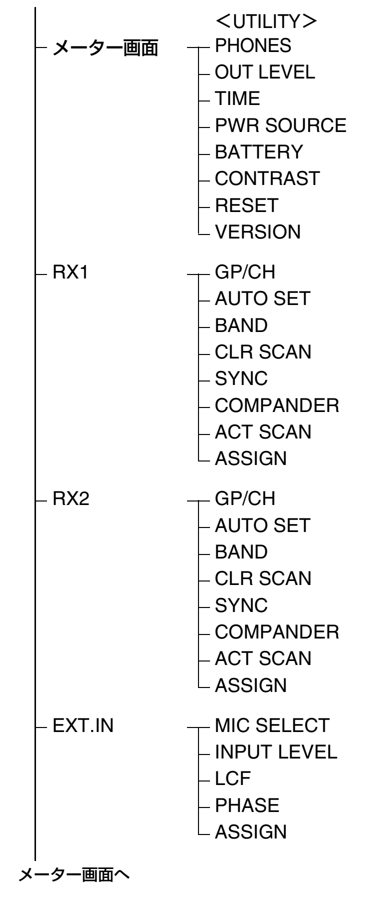
RX2（チューナー 2）メニュー

RX2（チューナー 2）の各種設定を行えます。

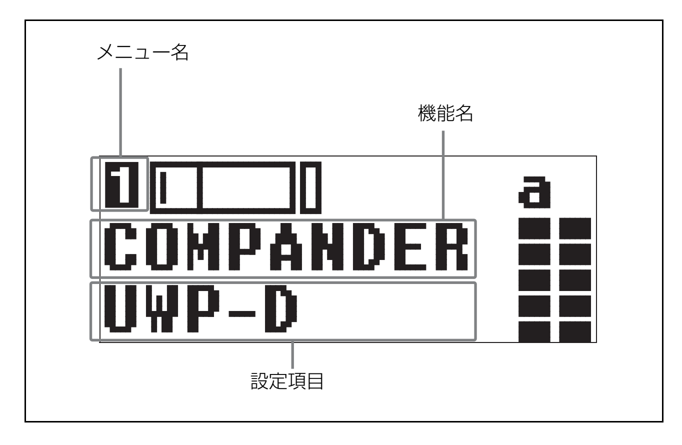
EXT.IN メニュー

外部入力端子に接続したマイクロホンについての設定を行うメニューです。

メニューの階層



メニューの基本操作



1 MENU ボタンを押して、設定または変更したいメニューを選ぶ。

ボタンを押すごとに、メーター画面、RX1、RX2、EXT.IN、メーター画面の順番で切り換わります。UTILITY メニュー内の項目を変更したい場合は、メーター画面を表示させてください。

2 ＋または－ボタンを押して、設定したい機能画面を表示させる。

3 設定項目が点滅するまで SET ボタンを長押しする。

4 ＋または－ボタンを押して、設定を変更する。

5 SET ボタンを押して、決定する。

ご注意

電源スイッチが OFF になっているチューナーのメニューは表示されません。

UTILITY メニュー

UTILITY メニューは、本機の基本設定に関わる項目が含まれているメニューです。
ここでは機能の説明と変更項目を説明します。下線表記は工場出荷時の設定です。

モニター音量を調節する（PHONES）

ヘッドホンのモニター音量を調節します。
工場出荷時の設定は 12 です。

◆ 詳しくは「モニター音量を調節する」（12 ページ）をご覧ください。

オーディオ出力レベルを設定する（OUT LEVEL）

音声の出力レベルを設定します。－ 12 dB から＋ 12 dB まで、3 dB 刻みで設定できます。工場出荷時の設定は 0 dB です。

ご注意

OUT LEVEL で出力レベルを変更しても、モニター出力レベルは変わりません。モニター出力レベルは別途調節してください。

◆ モニター音量の調節方法について詳しくは、「モニター音量を調節する」（12 ページ）をご覧ください。

累積使用時間を表示する（TIME）

使用時間の目安として、受信機の累積使用時間を表示します。
工場出荷時の設定は、00:00 です。99:99 まで表示が可能です。

時間表示をリセットするには

1 時間表示が点滅するまで SET ボタンを長押しする。

2 －ボタンを押し、「00:00 CLR」が表示された状態で SET ボタンを押す。

「00:00 CLR」が表示された状態で＋ボタンを押すと、時間表示が点滅します。この状態で SET ボタンを押すと、累積使用時間のリセットがキャンセルされます。

優先的に使用する電源を選択する（PWR SOURCE）

本体に装着した電池と、USB 端子に接続した USB ポータブル電源や外部接続用端子に接続したアクセサリーとの、どちらから優先的に電源供給するかを設定します。
<u>BATT -> EXT</u>：本体に装着した電池を優先的に使用します。
EXT -> BATT：USB 端子または外部接続用端子から供給される電源を優先的に使用します。
BATT ONLY：本体に装着した電池を使用し、残量がなくなっても USB 端子や外部接続端子から供給される電源には切り替わりません。

ご注意

BATT -> EXT および EXT -> BATT に設定している場合は、優先的に使用している電源が切れると、自動的にもう一方からの電源供給に切り替わります。そのため、電源がひとつだけ接続されている場合は、PWR SOURCE の設定に関わらず接続されている電源から供給されます。なお、供給される電源が切り替わる際に音切れが発生することがあります。

電池の種類を設定する（BATTERY）

使用している電池の種類に合わせて設定しておくと、より正確に電池残量を表示できます。
<u>TYPE1</u>：アルカリ単 3 形乾電池をお使いになるときの推奨設定です。新品のソニーアルカリ単 3 形乾電池の特性を基準に残量を表示します。

TYPE2：充電式ニッケル水素電池をお使いになるときの推奨設定です。
TYPE3：リチウム電池をお使いになるときの推奨設定です。

ご注意

電池の特性は、電池の種類や使用環境などによって変わります。ご使用になる電池の特性をあらかじめご理解のうえ、使用することをおすすめします。

表示の濃さを設定する（CONTRAST）

ディスプレイに表示されている文字やアイコンの濃さを、1 ～ 10 の範囲で調整できます。
設定できる値は以下のとおりです。
（淡）1 2 3 4 5 6 7 8 9 10（濃）

工場出荷設定に戻す（RESET）

すべての設定を工場出荷時の設定に戻します。
SET ボタンを長押しすると、工場出荷設定に戻すことを確認するメッセージが表示されます。＋または－ボタンを押して YES を選択し、SET ボタンを押すと、受信機の設定が工場出荷設定に戻ります。

ソフトウェアバージョンを表示する（VERSION）

受信機のソフトウェアバージョンを表示します。

RX1/2（チューナー 1/2）メニュー

◆ メニュー操作の方法について詳しくは、「メニューの基本操作」（13 ページ）をご覧ください。

RX1/2 メニューは、本機の主機能であるデジタルワイヤレスレシーバーの機能を設定するメニューです。

グループ／チャンネルを選択する（GP/CH）

工場出荷時の設定は、お使いのモデルにより異なります。

◆ 詳しくは「受信チャンネルを設定する」（9 ページ）をご覧ください。

自動で空きチャンネルを設定する（AUTO SET）

空きチャンネルを検索後、自動的にチャンネルを設定し、送信機へ赤外線送信を行います。

◆ 詳しくは「空きチャンネルを検索し、赤外線通信でチャンネル設定する（AUTO SET）」（11 ページ）をご覧ください。

周波数帯域を選択する（BAND）

受信周波数帯域を選択します。

ご注意

日本国内向けモデルおよび韓国向けモデルには、このメニューはありません。これらのモデルでは、周波数帯域は選択できません。

◆ 各周波数帯域に含まれるグループとチャンネルについて、詳しくは CD-ROM に収録されている周波数リストをご覧ください。

空きチャンネルを探して選択する（CLR SCAN）

空きチャンネルを検索します。

◆ 詳しくは「グループ内の空きチャンネルを検索する（クリアチャンネルスキャン）」（9 ページ）をご覧ください。

赤外線送信を行う（SYNC）

赤外線通信を使って、受信機で設定した周波数およびコンパンダーモードを送信機に送信します。

◆ 詳しくは、「グループ / チャンネルを手動で設定後、赤外線通信でチャンネル設定する（SYNC）」（11 ページ）をご覧ください。

コンパンダーモードを設定する（COMPANDER）

コンパンダーの動作モードを設定します。

◆ 詳しくは、「コンパンダーモードを設定する」（10 ページ）をご覧ください。

すでに使用されているチャンネルに設定する（ACT SCAN）

すでに使用されているチャンネルを検索します。複数の受信機を、1 つの送信機と組み合わせて同時に使う際に便利です。

◆ 詳しくは「グループ内の使用チャンネルを検索する（アクティブチャンネルスキャン）」（10 ページ）をご覧ください。

受信した音声を出力する端子を選択する（ASSIGN）

受信している信号を出力する端子を選択します。
工場出荷時の設定は、チューナー 1 が OUT1、チューナー 2 が OUT2 です。
OUT1：OUTPUT 1 端子から音声を出力します。
OUT1/2：OUTPUT 1/2 端子の双方に音声を出力します。
OUT2：OUTPUT 2 端子から音声を出力します。

EXT.IN メニュー

EXT.IN メニューは、本機の外部入力端子に接続したマイクロホンについての設定を行うメニューです。

使用する外部マイクロホンを選択する（MIC SELECT）

外部入力端子に接続したマイクロホンの種類を選択します。

OFF：外部マイクを使用しないとき

PLUG-IN PWR：プラグインパワー方式のマイクロホンを使用するとき

MONO BMP +5V：ソニー製のラベリアマイクロホンを使用するとき

入力レベルを調整する（INPUT LEVEL）

入力レベルを -12 dB ～ +12 dB の範囲で設定できます。接続するマイクロホンにあわせて調整してください。
工場出荷時の設定は 0 dB です。

ローカットフィルターを設定する（LCF）

風による雑音を低減するため、ローカットフィルターを設定できます。
カットオフ周波数を OFF/LOW/MID/HIGH の 4 段階に設定できます。

OFF：フィルターなし

LOW：カットオフ周波数 100 Hz

MID：カットオフ周波数 150 Hz

HIGH：カットオフ周波数 200 Hz

マイクロホンの位相を切り換える（PHASE）

逆位相で出力されるマイクロホンを接続する際に、位相を切り換えることができます。

NORMAL：位相を反転しません。

INVERT：内部で位相を反転させます。

入力した音声を出力する端子を選択する（ASSIGN）

入力されている信号を出力する端子を選択します。

OUT1：OUTPUT 1 端子から音声を出力します。接続されているマイクロホンが LR タイプの場合は、ミックスして出力されます。

OUT1/2 (L/R)：OUTPUT 1/2 端子の双方に音声を出力します。接続されているマイクロホンが LR タイプの場合は、L が OUTPUT 1 端子、R が OUTPUT 2 端子から出力されます。

OUT2：OUTPUT 2 端子から音声を出力します。接続されているマイクマイクロホンが LR タイプの場合は、ミックスして出力されます。

エラーメッセージ

ディスプレイ部には、通常表示の他に次のようなエラーメッセージが表示されることがあります。

表示	意味	対応
EEP ERROR	バックアップメモリーデータにエラーが発生しました。	お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。
PLL ERROR	PLL シンセサイザー回路に異常があります。	電源を入れ直してみてください。それでも直らないときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。
NO TONE	本機で設定したコンパンダーモードとは異なるトーン信号の電波を受信したため、オーディオ信号出力がミューティングされています。	使用する送信機に合わせて、コンパンダーモードを設定してください「コンパンダーモードを設定する」（10 ページ）。 UWP-D シリーズの送信機（UTX-B03、UTX-M03 など）を使用する場合は、送信機と本機のコンパンダーモードを同じ設定にしてください。

故障かなと思ったら

修理に出す前に、もう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

症状	原因	対策
電源が入らない。	電池の ⊕ と ⊖ が逆になっている。	正しい方向に入れ直してください。
	電池が消耗している。	新しい乾電池に交換してください。
	電池端子が汚れている。	⊕ 端子、⊖ 端子を綿棒でクリーニングしてください。
	PWR SOURCE が BATT ONLY に設定されているのに、電池が入っていない。	電池を入れるか、PWR SOURCE の設定を変更してください。
音が出ない。	送信機と受信機のチャンネルが違っている。	送信機と受信機のチャンネルを合わせてください。
	送信機と受信機のコンパンダーモードが違っている。	送信機と受信機のコンパンダーモードを合わせてください。
音が歪む。	送信機と受信機のチャンネルが違っている。	送信機と受信機のチャンネルを合わせてください。
音が小さい。	付属のケーブルと接続先の機器が正しく接続されていない。	接続先の機器の取扱説明書を確認し、正しく接続し直してください。
音切れ、ノイズが発生する。	2 本以上の送信機が同じチャンネルになっている。	同一チャンネルで 2 本以上の送信機は使用できません。付属の CD-ROM に収録されている周波数リストに従って各送信機のチャンネルを設定し直してください。
	チャンネルが同一グループ内の設定になっていない。	本機のチャンネルプランは、2 本以上の送信機を使用する場合、それぞれの送信機が混信しないように設定してあります。使用する送信機を同一グループ内のチャンネルに設定し直してください。
	近接チャンネルで運用している。	2 チャンネル（250 kHz）以上離れたチャンネルを使用してください。
	妨害電波が出ている。	受信機のチャンネルを RF インジケーターが点灯していないチャンネルに設定するか、クリアチャンネルスキャン機能を使って妨害のないチャンネルに変更してください。次に、送信機を受信機と同じチャンネルに設定してください。2 本以上の送信機を使用している場合は、妨害電波のない他のグループに変更してください。
送信機の電源を切っても、受信機の RF インジケーターが点灯している。	妨害電波が出ている。	受信機のチャンネルを RF インジケーターが点灯していないチャンネルに設定するか、クリアチャンネルスキャン機能を使って妨害のないチャンネルに変更してください。次に、送信機を受信機と同じチャンネルに設定してください。2 本以上の送信機を使用している場合は、妨害電波のない他のグループに変更してください。
赤外線送信で、送信機のチャンネルが設定できない。	送信機の赤外線受光部と、受信機の赤外線送信ポートが離れている。	送信機の赤外線受光部と受信機の赤外線送信ポートを約 20 cm 以内に近づけてください。
	他の機器で赤外線通信を行ったり、直射日光により妨害を受けている。	強い陽射しなどで妨害を受けると、通信距離が短くなることがあります。送信機と受信機をできるだけ近づけてください。

使用上のご注意

使用・保管場所

- UWP-D シリーズの機器を電力機器（回転機、変圧機、調光器など）に近接して使用すると、磁気誘導を受けることがありますので、できるだけ離して使用してください。
- 電飾などの照明器具により、かなり広範囲の周波数帯域にわたり電波が発生し、妨害を受けることがあります。この場合、受信機のアンテナの位置や送信機の使用位置により妨害が増減しますので、なるべく妨害を受けない位置で使用してください。
- UWP-D シリーズの機器を騒音の多い場所で使用すると、振動が直接本体に伝わり、雑音発生（マイクロホニック）の原因となり、規定の S/N を満足しない場合があります。影響を受けると考えられるものには次のようなものがありますので、充分に注意してください。
  - 回転機、変圧器などの付近
  - 空調機器より発生する騒音、または風を直接受ける場合
  - PA（Public Address）システムのスピーカー付近
  - スタジオなどに設置していて、スタジオの機器をぶつけたり、たたいたり、物を落としたりした場合

  対策として、影響を受ける条件からできるだけ離す、緩衝材を敷くなどしてください。

お手入れ

表面や端子部の汚れは、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。シンナーやベンジン、アルコールなどの薬品類は、表面の仕上げを傷めますので使用しないでください。

電波干渉を防ぐために

使用時に外来雑音や妨害電波などの影響で雑音が発生し、使用できないチャンネルが生じることがあります。このような場合は、電波干渉を防ぐために電波の発射を停止する（電源を切る）か、あるいは周波数の変更（チャンネルの切り換え）を行ってください。

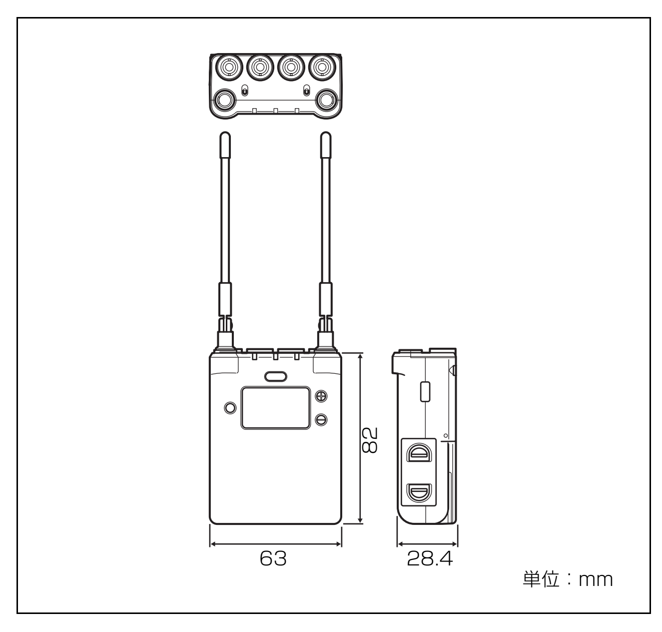
携帯通信機器による電磁波障害を防止するために

携帯電話などの通信機器を本機の近くで使用すると、誤動作を引き起こしたり、音声に影響を与えることがあります。本機の近くでは、携帯通信機器の電源はできるだけ切ってください。

主な仕様

アンテナ	1/4 λ ワイヤーアンテナ（角度調節可）
RF スケルチレベル	15 dB μ /OFF（0 dB μ =1 μ V）
音声出力レベル	− 60 dBV（変調周波数 1 kHz、周波数偏移 ± 5.0 kHz 時）
音声入力レベル	− 50 dBV（− 60 dBV 出力時、入力周波数 1 kHz）
ヘッドフォン出力レベル	5 mW（16 Ω）
音声入出力端子	φ 3.5 mm ミニジャック
受信方式	スペースダイバーシティ方式（1 チャンネル動作時はトゥルーダイバーシティ方式）
局部発振	水晶制御 PLL シンセサイザー
受信周波数	806 MHz ～ 810 MHz
S/N 比	60 dB 以上（A-weighted）
音声遅延	0.375 ミリ秒
ディエンファシス	50 μ s
基準周波数偏移	± 5 kHz
周波数特性	40 Hz ～ 15 kHz
ひずみ率	0.9% 未満（変調周波数 1 kHz、周波数偏移 ± 5.0 kHz 時）
トーン信号	コンパンダーモードを UWP-D に設定時：32.382 kHz コンパンダーモードを UWP に設定時：32 kHz コンパンダーモードを WL800 に設定時：32.768 kHz
インジケーター	POWER、RF1/2
許容動作温度	0 ℃～ 50 ℃（充電時は 0 ℃～ 35 ℃）
許容保存温度	− 20 ℃～＋ 55 ℃
電源電圧	3.0 V DC（単 3 形アルカリ乾電池 2 本） 5.0 V DC（USB 端子より供給）（2 チャンネル運用時：170 mA、ニッケル水素充電池の充電時：500 mA）
電池持続時間	約 5 時間（ソニーアルカリ乾電池単 3 形（LR6）、25 ℃）

外形図



寸法	63 × 82 × 28.4 mm（幅／高さ／ 奥行き） （アンテナ含まず）
質量	約 160 g（乾電池含まず）
付属品	シューマウントアダプター（1） ベルトクリップ（1） XLR-BMP 変換出力ケーブル（2） ステレオミニ -BMP 変換ケーブル（1） ご使用になる前に（1） CD-ROM（1） 保証書（1）

仕様および外観は、改良のため予告なく変更する場合がありますがご了承ください。

- お使いになる前に、必ず動作確認を行ってください。故障その他に伴う営業上の機会損失等は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、補償はいたしかねますのでご了承ください。
- 本製品を使用したことによるお客様、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切の責任を負いかねます。
- 諸事情による本製品に関連するサービスの停止、中断について、一切の責任を負いかねます。

お問い合わせは
「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社　〒108-0075　東京都港区港南1-7-1

http://www.sony.co.jp/